



《胴箔地雪輪青海波水仙文様唐織》平成18年(2006)



織りは恋人 国境を越えた 技と情熱

山口安次郎作 能装束 遺作展
—心と技の饗宴—

10.16[土]—12.23[木・祝]

山口安次郎は西陣に生まれ、12歳から織機に向かい55歳で会社を息子に譲ってからの約半世紀を、能装束の研究と製作に費やした生粋の織物職人です。生涯に織った能装束は、200領余にのぼります。



写真の2点は故ダイアナ妃に縁の能装束です。右の華やかな紅地の装束は、「紅入」と言い、若い女性を意味します。この紅色は、天然の山形産紅花で染められていて、糸の染めだけで三年を費やしたそうです。本作は1986年のダイアナ妃来日の際に、献上を予定して選ばれた唐織で、不滅と永遠を表す金箔の青海波文、皇帝の象徴である龍に対して皇后の意味を持つ鳳凰、日本の皇室の紋でもある菊花、藤花が配され、文様からもダイアナ妃への思いが感じられます。

ところが、ダイアナ妃が実際に



《紅地青海波鳳凰菊藤文様唐織》昭和51年(1976)



選ばれたのは左の唐織でした。金箔の地に雪輪を青海波文風に細かく重ね、水仙をたおやかに織り出しています。妃は、バッキンガム宮殿の周囲に咲く水仙に思いを馳せられたのかもしれない、と後年イギリスを訪問した安次郎は語っています。

この展覧会では、本年2月に105歳で天寿を全うした、安次郎渾身の能装束105領を展示します。一領一領に込められた安次郎の技と祈りをどうぞご覧ください。

(学芸グループ主任 中村麻紀)

正阿弥勝義
《蓮葉に蛙皿》(部分)
明治時代 径12.0cm
清水三年坂美術館蔵



ここまで作るか!?

世界に誇るニッポンの技・物作りへの執念

幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金属工芸
—清水三年坂美術館コレクションを中心に

2011.1.7[金]—2.20[日]

かつて日本には、まさに“超絶”と言っていい技がありました。硬い金属を自在に彫刻し、また様々な合金の色を操る技——金工。室町以来の刀装金工によって鍛えられ、職人たちは手のひらほどの大きさの中に、森羅万象様々なモチーフを作り上げました。

刀装具に見られる「すごく細かく」て「信じられないくらい本物そっくり」に作る技は、幕末・明治美術の独特の造形意識へとつながっていきます。世界に発信できる日本の工芸を目指した明治時代、その要求に応えるべく花鳥風月をテーマに、驚愕の技を披露して多くの職人たちが活躍しました。中でも特に自由奔放に作品を作り続けた岡山出身の名工、正阿弥勝義を紹介しましょう。「蓮葉に蛙皿」

は、素銅で蓮葉を形作り、金象嵌で葉の虫食いや色変わりしたところを見事に表現、小さな蛙をちょこんと乗せる心憎さを見せます。「鯉鯢鯢対花瓶 鯢鯢」は、サザエやウナギ、ハマグリなどを従えた鯢鯢を素銅と各種の象嵌で作り上げ、そのグロテスクなほどの迫力は圧巻です。こうした極限まで「本物らしさ」を追究する姿勢は、かつて完成をみた我が国金工の“超絶技巧”をベースとしていると言えるでしょう。この展覧会では、なかなか見るチャンスのない日本の驚きの技をあらためて知ることができるはず。「ここまでやるか!?’の世界を堪能してください。

(学芸グループ長 坪井則子)



正阿弥勝義
《鯉鯢鯢対花瓶》の内鯢鯢
明治時代 高32.0cm
清水三年坂美術館蔵

伝統を継承する 佐野美術館主催の 連続講座

日本刀初心者講座

本講座は、日本刀の理解を深め、豊かな感性を高めることを目的としています。日本刀の扱い方からはじまり、姿の変遷、五大流派の特徴などの課題を、当館所蔵の名刀を資料として学べるのが大きな特徴です。受講生は、きっかけ・

年齢・性別・お住まいもさまざまですが、皆さんが「日本刀」という共通の趣味でネットワークをつくっています。本気で日本刀を学びたい、そうお考えの方、お問い合わせお待ちしております。

講師：渡邊 妙子(当館館長)
日程：年12回
(5月スタート・原則的に毎月第4日曜日)
会場：隆泉苑(佐野美術館庭園内)
定員：10名程度
受講料：120,000円/年
受講資格：佐野美術館賛助会ミュージック会員または然るべき関係者からご紹介を受けられた方。
※お申込み・お問合わせ
佐野美術館(担当：中村麻紀)

吉澤創作 折り紙講座初級

現代折り紙の創始者、故・吉澤章氏の奥様であり国際折り紙研究会代表の吉澤喜代氏を講師に迎え、創作折り紙講座を開催します。

参加者の声

毎回季節に合わせた作品を折れるのが嬉しいです。出来上がった作品は毎月玄関に飾っています。

吉澤折り紙は普通の折り紙にはない表現や立体感のある作品に仕上がります。



講座の様子

講師：吉澤 喜代(国際折り紙研究会代表)
日程：年12回
(4月スタート・月1回開講)
13:30~15:30
会場：佐野美術館
定員：10名程度
受講料：42,000円/年(材料費別)
※お申込み・お問合わせ
佐野美術館(担当：遠藤充美)

講座内での刀剣研磨の実演(研師：松森喜龍先生)

